2016 節季 農耕号
アンナプルナ農園通信
熊本県菊池市原木字４４９０ Tel:0968-27-0212 Fax:0968-27-0206

新緑の眩しい季節になりました。石楠花やつつじが咲き、やさしい風に藤の花が揺れています。みなさまいかがおすごしでしょうか。地震の被害に遭われた方も多いと思われます。心からお見舞申し上げます。また私たちのことをお見舞い、温かい励ましの言葉をいただきました。ありがとうございました。お礼申しあげます。

お陽さまが強くなり、農園は無農薬の時期になります。今日は植付けを「花鳥村」にしました。これらの種苗は去年から仕込まれていた無農薬の苗です。農園では去年から仕事を共有し、共同で農園を回ろうと話し合ってきました。夫は今まで農業を離れ、上木曜の廃村を修復して住んでいます。熊本市内で「アンナプルナ農園」をやっていた頃から山道路の田舎を手に入れ、畑を造り、そこで、ゆっくりと、農的な暮らしを夢見ていました。そして、いよいよ、それが実現しました。これまでは準備をしてきたのです。

そして、木曜集落の高齢化、人口減少、過疎化、廃村、耕作放棄地、空き家、新しい時代を築いていくことになるのです。

今、この集落の高齢者は、その名前が変更されたのです。「廃村」から「新しい時代を築いていく集落」へ。

ある朝、映画ラピュタを観ていたら、花鳥風月という言葉が聞こえてきました。その名前はみんなのものになるのです。

けれどここは、家族が生活する農園だけでなく、もっと多くの人が住む村になる。そこで新しく誕生する村の名前を「花鳥村」にしようと、ということになりました。これらの新しい時代を築いていくのは、ばばっちゃはなくて、人が つながって暮らす必要があります。

そんな場所になるのです。

そんなわけで永年親しまれてきた「アンナプルナ農園」は、今年から「花鳥村」のお茶と名前が変わることになりました。身辺はもちろん同じです。「アンナプルナ農園」の名前は変わりません。アンナプルナ農園通信も名前はそのままです。

これから花鳥村通信と名前が変わります。

花鳥村の初句会を やりました。

うぐいすも花鳥村を宴祝ぐぬ（母）

たねおんで迎える宇宙の春の土（他）

地震で壊れたのは人間用が作ったものでした。草も木も花も実わはあり前が散りました。ばばっちゃは、ばばっちゃをひとりぼっちにしてしまいました。ばばっちゃは、ばばっちゃは、いまは元気に飛びはねています。お茶の新芽も霜にはびこりはじめています。新芽も南や東にはびこりはじめています。おいしいお茶になりますように。

（上木・千津子）

＊　＊　＊

お茶の発売元がアンナプルナ農園から花鳥村になります。スタンプ伝票の名前も変更します。またパッケージは現在のものから新しいデザインに変わります。

[花鳥神社]

道を歩いていたら振り袖姿の姉妹がいた。密内されていくと、宿は神社の社務所のような旅家で高齢なたたずまいの純日本家屋だった。

広い玄関に入ると人数ほどの入口の間の奥に広々とした座敷があり、障子を開け放った廊下の先に枝ぶりの よい松が見える。座敷には大きな座卓がおかれ、着物を召した お母さんが正座して おられた。部屋は畳んだ明るさと心地よい清々しさにみちている。そのただなるも不思議さに「ここはどこですか」と尋ねると、お母さんは枕上の半紙に毛筆でさらさらと（花鳥神社）と書いて、「やすくに神社です」といわれた。

わかし見たその夢が深く印象に刻まれたのは、（花鳥）と書いて（やすくに）と読んだことに心が惹かれたからだった。

（やすくに）とは国の平和である。

平和とは何によって護られるものだろう？

軍隊だろうか？　花や鳥だろうか？

軍隊が守る平和と、花や鳥に護られる平和と、どっちがほんとうの平和だろうか？

[花鳥山]

阿蘇山の北西、外輪山に連なる高原にアンナプルナ農園がある。隣接する国有地に約一万本植林した広葉樹はも う小さな森になっている。私たちが花鳥山と呼んでさきその森の500m程先に上木園の廃村がある。

美しい水が湧いている。

むかし５戸の農家がありました。

村人が興奮したあと、キャンプ場になった。眺めのよい南向きの緩斜面に古民家を活かして、バンガローやメインホールが建てられた。家は大小 10 軒。経営者が亡くなってから 10 年間、村は放置され荒れ果てていた。

水源を まもるためにその廃村を購入した。

ここを福島の子供たちの保養の村にできないだろうか？……小さな図書館をつくって……。そんな思いが泉の水のように湧いた。いま私はその「ふくしま文庫」で暮らしている。

[花鳥村]

農園では世代交代が実現して、経営主体が娘夫婦になった。これで表は晴れて隠居できる。

そこでアンナプルナ農園と花鳥山と上木園を合わせた新しい村の名前が必要だね、と話し合っていた。あるヨタヨタ、「朝、窓を開けたら、花がいっぱい咲いて、小鳥がいっぱいいたの。ハナトリって、きれいじゃない？」といった。

花鳥村……名前が決った。

農園が世代交代だけだとつまらないな、家族を超えた、新しい村が誕生した。これから お茶は、花鳥村のお茶として販売することになる。

[避難所]

地震は晴天の霹靂というわけではなかった。

今年は大崩壊の年になると覚悟していた。

先日ふいでになった若杉友子さんが「明日がある と思うな」と何度も繰返されていた。

これはまだ始まりにすぎないと思う。この秋からはムクラに厳しい時代がやってくる。

誰もいない実家の仏壇がひっくり返っていた。起こして手を合わせたら、中から声がした。

――ふま地震がきたら、どうする？

……はい、ケイタイ持って、避難所へ逃げます。

――いや、仏様はどうする？

……あ、忘れてました、持って逃げます！

――そうではない、ここへ逃げろの だ。

この夾にほんとうの避難所がある。

[花鳥村誕生祭]

その日の午後、妻と私は熊本空港からソウルへ飛んでいた。地震のニュースを聞いたのは翌朝のことだった。急いで帰ろうかと考えたが、交通も途絶えているようなので、仕方なく講演のスケジュールをこなし続けた。

この秋の 10 月 14、15 日に花鳥村でやや大きな誕生祭を開こうと計画している。韓国からもたくさんの人が参加してくださるという。中国からも参加申込みがあった。福島や東北の友人たちも来て、共に『生命平和な東アジア』のヴィジョンを語り合いましょう。（正木高志）

2016 節季 収穫号
花鳥通信
〒861-1441
熊本県菊池市原４４９０ Tel:0968-27-0212 Fax:0968-27-0206

ふと耳を澄ますと地震の時には聞こえなかったカエルたちの鳴き声が聞こえてきます。この度はたくさんのご心配、励ましのご連絡をいただき本当にありがとうございます。お陽さま私たち家族はみんな元気にしています。

気がつけば 農園には茶摘みの季節です。お茶は新緑の鮮やかな芽を摂ま。地震の影響なのか生きる力が満ちて力強く見えます。今年は地球の震動を受けてパワッキリと目が覚めた新茶をみなさんにお届けできそうです。

地震後、熊本市にある祖母の家の屋根瓦等を兼ねて、ボトちゃと早起きして野草弁当を作り親戚や友だちに届けに伺きました。前日の夕方に思い立ちフキを湯掻き、夜にキャラブキを炊いて、菖蒲、土蜜に飯を炊いて、山椒の佃煮を入れたおにぎりを握り、エツバの姿造りと盛気の効いた沢庵を添えて、野草弁当ができあがり。野草の力がみんなの痛んだ身体を洗れて大地とつながりますように。

世界が変わってしまったな。自分に何ができるんだろうと考え続けていました。それは若杉おばあちゃんから学んだ野草料理の実践をすること。四光のようにやってきた答えでした。この冬、ばあちゃんから学んできたのは、この時のためだったんだと腑に落ちます。

大地が揺れる時、草の上に寝転んで目を深くふう～と吐くと、恐怖の先には地球とつながっている感覚があり、緊張が溶けてて安心します。

このんなさい、このんなさい、泡のような恐れの殻をどうぞ壊してください。

笑い咲め。咲い咲め。地震の底から声が聞こえてきます。

「あんたたち、草食って生きる時代がくるのよ」「明日があると思うな」若杉おばあちゃんが口癖のように言っていた言葉が現実になり、私の足下で顔の灯のように始まった命のミッション「野草のカプロジェクト」。

つちのように何倒なく、山椒のように勇ましく、たんぽぽみたいに平凡の、内なる母性の革命。Be Mother。。。